

# 改革に挑む

## 大学「この人に聞く」

### 「環境」と「情報」別学部

### 専門身に付け文理融合

環境や情報は社会ニーズや学生の志望が高いが、状況変化も大きい分野だ。東京都市大学では現在の環境情報学部（横浜市都筑区）を2013年度に改組し、環境学部とメディア情報学部の2学部4学科に組み換える。吉崎真司学部長に転換の理由と差別化について聞いた。

◇ ◇

「これからは環境と情報分野の文理融合の課題解決型の学問が重要だ、という意識は設立当初からのものですね。」

「その通りだが、97年の学部設立から15年、情報も環境も社会の変化は著しく従来通りではない。学年定員はそのままに、

東京都市大学環境情報学部長

### 吉崎 真司氏

2学部に分けて各分野をもう一步、深めるべきだと考えた。文理融合は、文理別進学指導がなされている高校側にわかりにくい問題もあった。そこで情報と環境を別学部にし、それぞれ文理別の学科で専門を身に付けつけたうえで文理融合に、方針……

「就職に有利な資格を取れるよう後押しする……と吉崎さん



を変えた」

「文理の別に加え、他大学との違いも問われてきます。」

「環境学部環境創成学科は自然環境の修復や都市環境を扱う理系で、同学部環境マネジメント

ト学科は環境経営や政策にアプローチする文系だ。各大学は農学・工学・理学の中で環境配慮のテーマを置いているが、正面切つて環境学部としてるところは多くはない」

「情報も受験生獲得の激戦区ですが……。」

「メディア情報学部情報システム学科は理系で、視点を使う側には置き、社会ニーズから技術を見るのが特徴。システムを作る多くの工学部情報系と違い、情報通信技術（ICT）が受け入れられる社会についての調査・評価といったICTアセスメントなどで個性を出したい」

理士、環境計量士などだ。メディアでも『情報』の教員免許や社会調査士に合格できる力を付ける授業を意識していく」

### 記者の目

実務家教員ならではの感性で新時代の教育を

「一方、メディア情報学部の社会メディア学科は文系だ。社会学を持つ多くの大学が取り組んでいる人間・地域コミュニケーションをテーマとし、厳しいことを頭に入れた上で、進めていく必要がある」

「人気分野といっても卒業後の進路に直結するかどうかは別問題では？」

「就職に有利な資格を持って社会へ巣立つていけるよう後押しする。測量士、ピオトープ管

学部長は、空港や道路の建設前に環境評価をするコンサルティング会社勤務が長かった。授業では『横浜市で200ミリ以上の雨が降った』というニュースは、市の全地域の土地面積に対して高さ20センチ分の雨が降ったと想像して」と呼びかける。「五感を使って環境を感じられる学生を育てたい」という実務家教員ならではの感性で、新時代の教育を進めてほしい。（編集委員・山本佳世子）